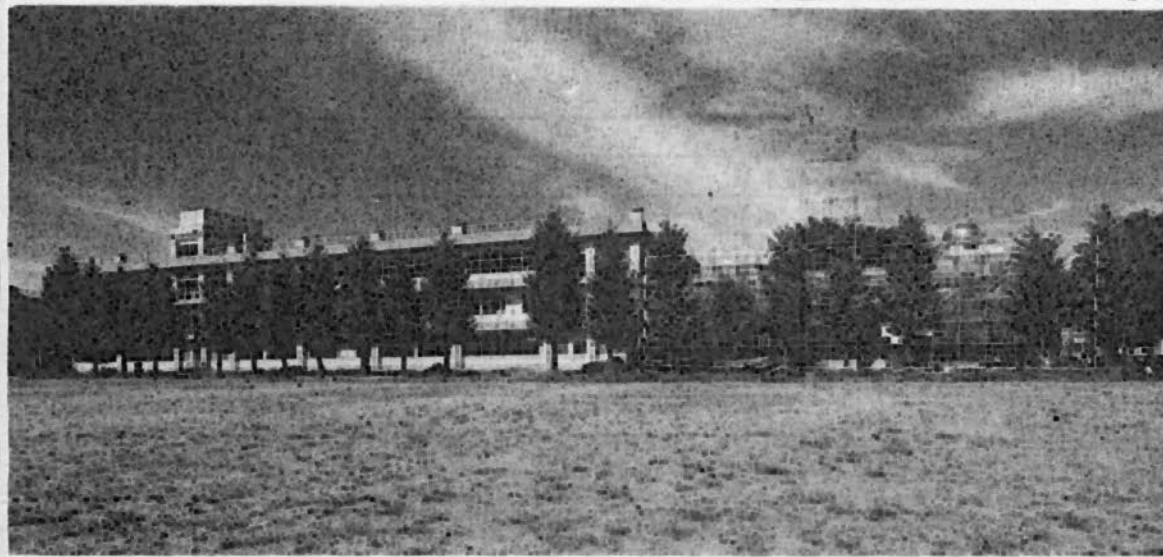




新校舎第二期改築工事

天体ドーム完成

新校舎改築工事も本年は第三期工事が前回と同様、井上工業KKによって進行しております。教室棟の東半分、九教室分です。これで教室棟は一応完成することになります。第二期工事（管理棟東半分）で出来ました建物の屋上の東側に異彩を放ちます天体ドームも、中に三〇センチの反射鏡（一、一二五倍）十五センチの案内望遠鏡（四六五倍）が、会員皆様のご尽力によって設置されました。最優秀の器具で、研究成果の飛躍が期待されております。一度、ご高覧願いたいと存じます。（46回 塩浦徳三郎）

校庭改修に着手

校庭改修については、募金の進捗状況と校舎改築工事とにらみ合わせて、その着工の時期を検討してまいりましたが、いよいよ本年度内に工事にかゝることになりました。工期は五十一年末から五十二年四月末までとなりそうです。

その平面図は、校内の校庭改修委員会で作成し、八十周年記念事業委員会の役員会で承認を得たものが、下に掲げるようなものです。

校庭の南に県内の高校でも珍らしい四百米のトラックを配し、トラックの内側にラグビーおよびサッカー場を作ります。野球

のホームベースは、銀杏並木をそのまま、残すために、従来のものと反対の位置に移すことになりました。プールの周囲にバレーおよびテニスコートを四面作りませんが、将来もしプールを他の場所に移転することが可能であればプールの跡にテニスコートを更に二面作ることが出来ます。

校庭改修の目的は、募金趣意書にも述べてあります通り、よい表土を入れ、排水溝を整備して水捌けをよくし、使いよいグラウンドを作ることにありますので、この点については充分意を用いて、募金により集まりました貴重な資金を有効に使う所存であります。（渡辺延一教頭）

創立八〇周年記念事業募金状況の 中間報告とお願いについて

会員皆様の絶大なるご協力により、募金活動が順調に進み、お蔭をもちまして、校庭改修に着手することが出来たので、現在までの募金概要を報告致します。

同窓会一般寄付は、一、一八八名の方々から、一、一五六万円のご寄付をいただきました。寄付においても、また同窓会維持会費においても、非常に多数の方々が、学校のため、同窓会のため、深いご理解をお寄せ下さっております。学校は勿論、同窓会長以下役員、事務局一同、心から感謝申し上げます。校庭改修も計画が進むと、土の厚さも十分なものになりました。またバックネット等附属設備も必要となつてまいりますので、なお一層のご援助を賜りたく、趣意書と振替用紙を同封いたしますので、よろしくお願ひします。

同窓会特志寄付は、経済界がいまだ不況から立ち直っていないのにも拘らず、一四二の事業所や個人の方々から、四、五六一万円のお申込みとご寄付をいただきました。

80周年記念事業収支見積書

1. 支出見積

(1) 学校史および式典	5,000,000円
(2) 校庭改修	90,000,000
(3) 学芸部室棟	25,000,000
(4) 天体観測ドーム および望遠鏡	7,000,000
計	127,000,000

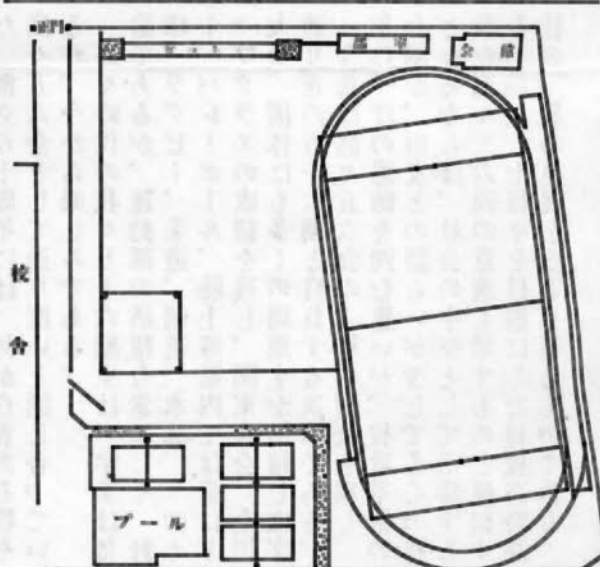
2. 収入見込み

(1) 同窓会寄付	69,000,000
(2) P.T.A. 寄付	28,000,000
(3) 県費	30,000,000
計	127,000,000

特志寄付は、募金委員長井上卯一郎氏外役員の方々のご足労により成果を挙げて居りますが、今年は特に市川清氏のご援助によって、多数の皆様のご厚志を戴くことが出来ました。

P.T.A. 特志寄付も、毎年着実に成果をあげております。

同窓会寄付は目標にあと約一、二〇〇万円となりました。記念事業完遂のため、なお一段のご厚情を賜りますようお願いいたします。（39回 戸塚興嗣）



昭和51年度同窓会経常会計予算案 (51年1月～12月)

収入の部		
費目	昭51年予算	備考
前年度からの繰越金	267,852	
入会金	405,000	1,000×405
維持会費	1,200,000	
利息	10,000	
合計	1,882,852	

支出の部		
費目	昭51年予算	備考
会議費	50,000	1万
祝賀費	100,000	△5万
饗別費	80,000	△2万
慶弔費	80,000	2万
通信・印刷費	100,000	△12万
旅費	60,000	1万
總會通信・印刷費	600,000	15万
同窓会報	150,000	0
事務費	550,000	15万
予備費	112,852	△99,169円
合計	1,882,852	+50,831

会計 校内幹事 塩浦徳三郎
角田匡己

昭和50年度庶務報告

- 50.1.25 同窓会総会 高崎 高崎商工会議所大ホール
5.30 京浜同窓会新入会員歓迎会 東京 都道府県会館
7.10 創立80周年記念事業募金部 高崎 高崎高等学校
委員会
11.20 京浜同窓会総会 東京 都道府県会館

昭和50年度同窓会経常会計報告

(50年1月～12月)

収入の部			
費目	昭50年予算	実収入	備考
前年度からの繰越金	226,021	226,021	
入会金	405,000	414,000	全11,000×405 前11,000×5
維持会費	1,200,000	1,267,891	
利息	1,000	17,258	
合計	1,832,021	1,925,170	

支出の部			
費目	昭50年予算	実支出	備考
会議費	40,000	30,580	総会補助等
祝賀費	150,000	76,000	開明・地味・朝 ラッセ会
饗別費	100,000	49,000	転退職職員
慶弔費	60,000	66,500	香典・花輪
通信・印刷費	220,000	36,220	
旅費	50,000	39,480	京浜同窓会 支部
總會通信印刷費	450,000	260,092	
同窓会報	150,000	94,900	
事務費	400,000	485,546	人件費・用品 備品
予備費	212,021	19,000	図書
特別会計へ		500,000	
次年度への繰越		267,852	
合計	1,832,021	1,925,170	

昭和51年 1月24日

会計 校内幹事

塩浦徳三郎
角田匡己

五十期同窓会所感

中村 靖

昭和二十年春、第二次世界大戦末期の本
土空襲が毎日のように繰り返される中で、
私は高崎の入学式に列席した。第一学期
は教員と勤務奉仕と空襲に明け暮れ、夏休
みには終戦の日を迎えた。焼土の煙も消え
た頃、第二学期となった。新聞紙のような
教科書や、ところどころ黒く塗りつぶされ
て前後の脈絡もないまま、読まされる教科書
で授業が始まった。それでも私は元気が
あった。戦時中にできなかったことや途絶え
たことを一つ一つとりもどしていった。自
治会、運動部の創立、前中定期戦の復活、
一万米マラソン等々、思えばなつかしいこ
とばかりである。お互いに貧しい毎日の中
で、ロクなものも食べず、学生服もないま
まではあったが、私達の青春はそれでも脈
脈として波打っていた。いやお互いに貧し
かったからこそ生忘れ得ぬ青春がそこに
あったのかもしれない。いつしか、高崎は
高々となり、私は六年もの間、同じ道を
通学した。友情はもはや兄弟愛に近いもの
にまで昇華した。昭和二十六年私達五十期
生は無事卒業するはずであった。しかし、
思いもかけぬ高々の大火が多感な青年達を
再び打ちのめした。私は夢中で消火活動
をした後、校庭でファイアーストームを囲ん
で肩を組み無言の涙を流しあっていた。……
あれから二十五年が過ぎた。平和な新緑
の中を水上に三々五々と集った友達は八十
人を超えた。本当になつかしい顔顔。当
時の内藤校長先生をはじめ十人もの先生方
のお顔もみえる。学生時代のまのヤツ、
すっかり白髪になったヤツ、顔はわかるが
名前がでてこないヤツ。卒業後二十五年ぶ
りで会ったヤツ。どいつもこいつもみんな
なつかしい。大きな声、忘れ得ぬ声、心の
底に響く声。流水長き二十五年の歳月をこ
え、今、私はあの高崎、高々時代にど
った。心の友が右に左に居るではないか。
楽しきかな五十期同窓会よ。過ぎ去った思
い出は翠樹の影を追うようにどこまでも続
く。友よ、いつまでも語れ。うたげの終
時を忘れて。五年後に元氣な顔で又やろ
うではないか。

行くぞ!! 高々五六会

高々五六回幹事 生方将夫

昭和三十三年の卒業以来十六年ぶりの昭
和四十八年二月、地元同期生の間で一夕飲
み且つ話して、旧交をあたためようと云う
事になった。急な話しなので連絡も思うに
まかせず、幹事五人も大変であったが、そ
れでも四十一名の出席を得る事が出来た。
会場では卒業以来始めて顔を合せる者も多
く大変に盛り上った同期会となった。
途中で四陣を作り肩を組み、校歌翠樹を
歌いながら過ぎにし高々時代の思い出に各
各が没り、本当になつかしく、楽しい一夜
であった。出席者全員でこの同期会を、「高
高五六会」とし毎年二月に開会する事を申
し合わせた。第二回高々五六会からは、安
居先生、市川先生、下山先生他諸先生の御
出席も頂き又会員も増えて盛会裡に第五回
五六回を迎え様としていた。
毎回三百通の案内状を送っているが、約
六十通が返送、約五十通が返信なしと云う
状況であるが、欠席者の中でも北は北海道
えりも町から、南は四国高松、九州大分か
ら元氣な便りを書きそえてくれ、出席者に
発表するのが楽しみである。
第一回には、有志が募金して母校野球部
へ送り、第二回には出席者全員が寄附金を
出し合い母校に鯉のぼりと吹き流しを送つ
た。創立八十周年には、何か意義ある物を
高々五六会として送り度いと話し合ってい
るが、今から楽しみである。
高々時代の我々五六期生は、学業は勿
論であるが、運動部の活躍も素晴らしく、野
球、ラグビー、柔道、剣道、水泳、サッカ
ー、バレーボール、陸上等県内では常にト
ップクラスの成績を残し、関東大会、全国
大会、国体にも多くの同期生が活躍し文字
通り花の五六期と自負する次第である。
今後は高々五六会の一層の結束を期し、
年に一度の恩師を囲む集いが、校歌翠樹の
合唱が、旧友との語らいが少しでも心の糧
となるならば、社会の中堅として活躍する
我が高々五六回の意義も増すものと確信す
る。創立八十周年を目前にした母校高崎高
校の一層の発展を心より祈るものである。

旧師のコラム

コチの昨今

栗原重吉

高中第十九回卒業生が五年生の時から私は十七年間にわたって同校に勤めたが、今八十一才の私もその頃には血氣盛んな青年だったわけだ。教え子の中には博士、社長、大臣、その他各方面で偉くなっている人が数限りなくあり、どんなに偉くなっても時折逢ってみると、懐かしそうに「先生……」と云ってくれる。先生という仕事の有難さを今更しむじみと感ぜさせられる。こんなことならあの頃なせもつとだいにしてやらなかったかと思われる。コチだったからなア……

「俺は百六十まで生きる」と豪語していたコチも、今は視力が弱くなったので、不本意ながら来年度からは県庁も学校も勤めはすっかり止めることにした。しかしまだコチはボチ(墓地)に移るわけではない。若い諸君の活躍を眺めながら庭の花作り、野菜作りを楽しみに余生を送ろうと思っている。

(なお栗原先生の住所は左記の通りです。)

高崎市大橋町二五九

電話(〇二七三)(2) 一五〇四

係では同窓生のご希望にそって「旧師のコラム」をうめたいと思います。ご消息を知りたい恩師名を係までご連絡下さい。

バラと人生

塚田とほる

ソロモン・グランディー、
月曜に誕生、
火曜に命名、
水曜に結婚、
木曜に発病、
金曜に悪化、



カット 塚田とほる先生

土曜に往生、
日曜に埋葬、
ソロモン・グランディー
これでおしまい。 ⑪

この童謡には人間の生と死をユーモラスに語っているのでマザー・グースの詩の中にも好きだ。

藤田嗣治(一八八六一一九六八)の黄金時代の作品に「アコーデオンのある静物」

(一九二二年作)がある。

F60大の縦の画面の上半分に年令の推移(DECRES DES ÂGES)の絵が額に入れている。これは誕生から死まで人生の十三段階が描かれたフランス風の絵紙で藤田はこの絵に随分と執着して静物の中に模写している。十七世紀のヨーロッパでは静物画の中に好んで饕餮やバラ一輪を添えたりして好んで人間の空しさを表現した時代がある。

フランスの詩人ビエール・ロンサールは人生とバラをテーマに、ばらも人生もはかない故に詩のテーマになると語っている。スペインのスルバラン(一五九八—一六六四)に「聖フランチェスコの奇蹟」と言う絵がある。それは、自らの肉欲を制する為にバラのとげの上に身をころがして、流した血の滴りがバラの花になったという奇蹟である。

ばらにはそのままで造形的な形式美がある。だから多くの画家はその美の祭壇の前にぬかづくのだが、此頃、僕は大きな画面に何とかバラの絵の集大成を試みたいと思っている。

⑫ 原詩

Solomon Grundy,

Born on a Monday,

Christened on Tuesday,

Married on Wednesday,

Took ill on Thursday,

Worse on Friday,

Died on Saturday,

Buried on Sunday.

This is the end

Of Solomon Grundy.

(マザー・グースの唄)

平野敬一著より

同窓各位

昭和50年11月

群馬県立高崎高等学校同窓会長

小山長四郎

同窓会維持会費についてお願い

時下ますますご健勝のこととおよろこび申し上げます。

また高崎高等学校同窓会の運営については、日頃よりご高配をいただきありがとうございます。

さて、ご承知のことと存じますが総会の決定により、昭和47年度より維持会費(会員一人当り年額一〇〇〇円一〇〇〇円一〇〇円以上を納めていただくことになりました。なお常任理事会で常任理事については五〇〇五、〇〇〇円、理事については、三〇三、〇〇〇円お願いすることに申し合わせてあります。

なにとぞ同窓各位におかれましては同窓会運営のため、ご賛同を賜わり、ご協力の程お願いいたします。

なお納入には同封の維持会費納入用の振替用紙をご利用下さい。

追記 八十周年記念事業用の振替用紙も同封してあります。

「すいらん体育会」の現況

さる五月、五十一年度総会が開かれ、役員改選の結果、次の通り決定された。

会長(50回) 国峰善次郎氏

副会長(52回) 勝俣 真氏(会計担当)

(61回) 友松 敏三氏(庶務担当)

(57回) 本多 健氏(行事担当)

なお田中彰氏(50回)が会報編集長として各クラブOB会の連絡調整にあたることになりました。

同窓会便り

京浜地区

46回 岸 芳彦

編集係より京浜同窓会について、何か書くようにとのことなので、当会の現況について記したいと思います。

戦前に創立された京浜高中学会は、戦火のため中断を余儀なくされ、戦後ようやく再建されたのは昭和二十六年になってからでした。

その後年々隆盛の途をたどり、現在では会員数千八百余名、それ／＼政財学官等各界の第一線で活躍しており、文字通り自他共に認める京浜高学会に発展して来しました。

主な行事としては、春に行う新入会員歓迎会、秋に行う(年次)総会ですが、そのほか年に数回は幹事会を開き、時には新年会、忘年会、旅行会等も行っております。

なお機関誌「翠樹」は春に、名簿は秋に毎年欠かさず発行しております。そしてこの為の編集会議も頻繁に行い、甲論乙駁、時には激しいやり取りになり、これも又楽しいものです。

因みにこの「翠樹」の表紙の題字は戦後の初代会長をつとめた第一期の故宮部二郎氏(弁護士)のもので、又絵は二十四期の故山口薫氏(画伯、芸大教授)の筆によるものです。創刊号発行の時に、特にお願いかいてもらったもので、爾来これを毎号続けて使用しています。現編集係は二十二期の南雲今朝雄氏(聖マリアンナ医科大学教授)で、前編集係は十二期の堀山政道氏(東京都教育委員長)でした。なお当会の会長は十九期の高間繁氏(明星電気会長)で事務局も銀座の同社内にあります。

関西地区

31回 福田 一郎

高中の大先輩でデビスカップの元日本代表選手清水善造氏(7)は予てより、終戦後関西に同窓会の設立を企図され、その実施を私に依頼されました。しかし丁度、世間の混乱している時期でもあり、仲々思うように任せませんでした。

所が時日も経過している中に四十年十一月此所大阪の地に県事務所並に県観光案内所が設置され、これを機に県人会結成の機運が高まり、遂に四十一年六月に結成を見ました。そして県人会が出来るとその中に同窓生も集まり、それに県関係の方の支援もあって、四十七年、石坂収氏(23)を会長に推して発足しました。発会式には前記清水氏は健康上の理由で欠席でしたが、大先輩田中精一氏(12)田中金司氏(12)を始め約三十名が出席し一同「翠樹」を浮べてはの応援歌を浪速の空一杯に響けと許り斉唱感涙に咽びました。其後一年一回の会合を持ち現在に到っております。由来、当地が母校より遠隔地のため創設後約十年になりますが、会員数も当初より増加せず、転動等でむしろ減少の感さえあります。こんな訳ですから同窓の諸君も今後どし／＼関西方面へ進出される様期待しております。

現在会員数は約五十名、その中、年一回の会に出席者は十五から二十名位です。清水・岡田中さん等は老令のため最近はお見えになりませんが、石上(14)西岡(20)先輩は毎回元気なお顔を見せます。総会は高々のみですが、この懇親会は近年高商と合同

で行い、和気あい／＼の裡に親睦の実をあげています。同窓生も数に於ては少数ですが、地元の商工業・金融界その他各分野に進出活躍しております。その活動の間、吾等関西同窓生のいつも心に念ずることは、

生涯に一度だけでよい、甲子園原頭母校の応援歌を絶唱出来る秋の来ることを……。その日の一日も早からんことを期待、且つ母校並に同窓会の発展を祈って筆を擱きます。

名簿係からのお願い

新同窓会会員名簿予約受付について
来月6・7月頃、5年ぶり同窓会名簿が発行となります。前回、昭和47年版(半年遅れました)発行直後より今日まで、引続き訂正の事務は続けられております。毎年の全会員への通知の機会をとらえての異動調査、各期の幹事の方々の同期会の把握、地域、職域別の同窓会、各部、校友会のOB会等々、各方面のひとかたならぬ御尽力により改訂作業が順調に進められ、予定通り来春発行されることになりました。名簿原簿の全面書きかえと郵便番号、電話番号も新しく書き加えて一応原稿を完成させておりますが、今日でも連日、一枚、二枚の異動の通知が届きます。膨大な同窓生を抱

えておりますと、完璧を願っておりますが一抹の不安が残ります。尚一層の御援助をいただき、更に正確を期したいと存じます。そこでこの機会に前回同様、次の要領で一般の予約をお受けいたしますのでお申込み下さい。

- 1 一部領布価格 二、〇〇〇円
- 2 振替用紙(同封のもの)で送金願います。
- 3 領収書は振替用紙のものでかえさせていただきます。
- 4 部数集約のため早めに御申込み下さい

郵送料・諸費用 五〇〇円
合計 二、五〇〇円

同窓会名簿係

進学状況

種別	合計	49年	50年	51年
A 国立一期	90	101	92	
B 国立二期	61	77	78	
C 公立	15	14	9	
D 私立	345	389	430	
A+B+C+D	511	581	609	
準大学・短大・各種	7	6	4	
総計	514	587	613	
卒業生数	369	362	359	
現役進学者数	133	126	144	
合格者/進学希望者	36.1%	34.8%	40.2%	

	49年	50年	51年		49年	50年	51年
北大	10	6	8	青学大	17	14	18
東北大	21	18	14	学習大	3	10	11
千葉大	11	7	13	慶応大	26	31	31
東大	5	20	14	芝浦工大	1	5	4
一橋大	11	4	3	上智大	9	11	10
東工大	2	4	6	中央大	29	32	39
筑波大	7	7	4	東海大	3	3	4
新潟大	11	14	12	東京電機	1	1	2
金沢大	3	5	2	・理科	17	22	35
京都大	3	8	5	・医大	5	1	1
群大	30	34	37	東洋大	6	5	5
埼玉大	7	11	6	日本大	22	22	21
東外大	1	2	1	法政大	23	28	15
山梨大	1	2	1	明治大	50	41	38
信州大	8	7	3	立教大	13	26	25
横国大	4	5	4	立命大	4	11	15
高経大	7	8	6	同志社	5	6	8
横市大	6	3	3	早稲田大	43	61	65